

小諸宿周辺地区

(長野県小諸市)

- 計 画 期 間 平成 25 年度～平成 29 年度
- 面 積 54ha
- 交付対象事業費 4,204 百万円
- 市人口 43,536 人 (地区内人口 1,021 人)

ポイント

市庁舎敷地一帯に、市庁舎、図書館等の複合的な施設と、安全・安心の拠点となる小諸厚生総合病院を配置、併せて、両者のエネルギーについて相互利用を行い、持続可能な活力あるコンパクトシティ小諸の再構築を図る。

目 標

大目標：『持続可能な活力あるコンパクトシティ小諸の再構築』

目標①：都市機能集約による省エネルギー化の推進。

目標②：緑化の保全推進。

目標③：中心市街地の魅力の再生。

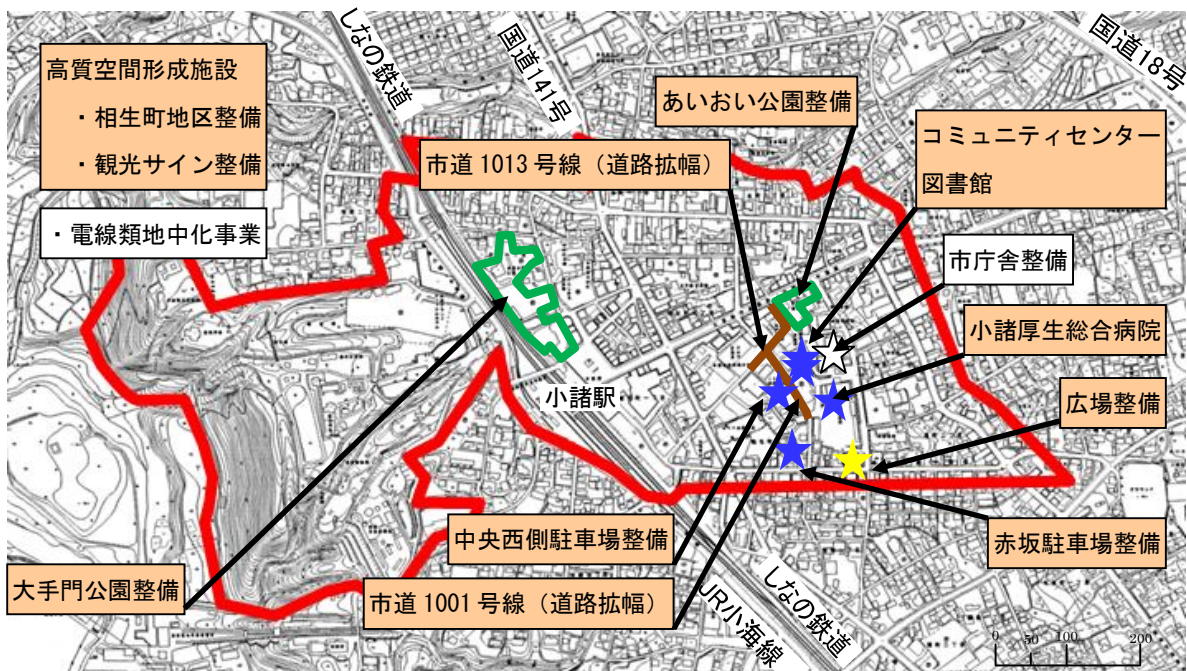
指 標

老朽建築物の省エネルギー性能の高い建築物への建て替えによる二酸化炭素の排出量削減効果等を設定。

整備計画区域の集約地域における CO2 排出量	33,325tCO2/年 (H24)	→	31,621 tCO2/年 (H29)
整備計画区域の都市公園における CO2 直接吸収量	30.6tCO2/年 (H24)	→	31.5tCO2/年 (H29)
相生町商店街の歩行者数の計	810 人/日 (H24)	→	1,141 人/日 (H29)

事業内容

基幹事業 (4,204 百万円) → 道路、公園、地域生活基盤施設、高質空間形成施設、高次都市施設 (コミュニティセンター)、中心拠点誘導施設 (図書館、小諸厚生総合病院)、街なみ環境整備事業



地区の現況と課題

中心市街地は、小諸城や北国街道を中心に交通の要所として栄え、小諸駅は「特急あさま」が停車する長野県東部の拠点駅であった。

しかし、平成9年に長野新幹線が開通したことにより、信越本線は第三セクター路線（しなの鉄道株）に転換、地元経済・観光は大きな影響を受け、中心市街地は、かつての繁栄を失い活気がなくなった。

小諸厚生総合病院は、浅間南麓の中核医療施設として欠くことのできない病院である。しかし、社会問題でもある医師不足、建物の老朽化、病院の統廃合や救急医療機能の縮小などの理由から小諸市での存続が懸念され、厚生病院が小諸市から消えてしまう危機感が募り、市民にとって厚生病院の再構築は重要な課題であった。一方、市庁舎等も老朽化が著しく、また、エレベーターもなくバリアフリーに対応していない建物であり、市庁舎整備も喫緊の課題であった。

計画策定プロセス

平成21年3月に小諸厚生総合病院と市庁舎の再構築計画を提案して以来、計画が二転三転して場当たりのご意見も頂いたが、事実として多くの市民の中で議論が進み、今まで想定されたこと以上の新たな問題などが多く判明するなど、状況が大きく変化してきたなか、現在考えられる最良の案として、平成24年10月に現在の方針を示した。

柳田剛彦市長のコメント

現実的な課題に対応する必要からスタートした市庁舎敷地一帯での再構築整備である。このきっかけを、小諸市が自律的で持続可能な自治体であり続けるための大きな一歩とするため、多様な関係者と協働で第5次基本構想の策定を進めています。

時代の変化に相応しいまちづくりを展開するため、都市構造を中心としたこれまでの対応に加えて、医療・福祉・教育・文化・産業など、分野・施策と連携した包括的なまちづくりを推進してまいります。

J A長野厚生連・小諸厚生総合病院 黒柳隆之院長のコメント

当院は小諸市の中核医療機関として、50年以上にわたって二次救急を中心とした地域医療を担っております。今回、地域からの二次救急医療存続の要望を受け、小諸市庁舎と併設するかたちで平成29年度に中心市街地に新築移転します。

基本コンセプトには小諸市の目指すコンパクトシティ構想に協力していくことを掲げており、低炭素のまちづくり計画をはじめ、まちなかのにぎわい復活や子供から高齢者まで安心・安全に暮らせるまちづくりにも参画してまいります。利用される方にとって行政と病院が一体化されるメリットを発揮できるよう、共に取り組みを進めます。

市立小諸図書館協議会委員 酒井興一氏のコメント

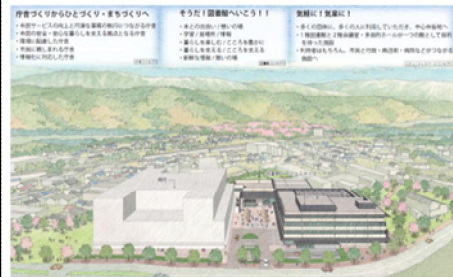
コンパクトシティの中核として図書館が、市立小諸図書館条例第2条により「すべての市民の自由を守り」の主旨にもとづき、市民が知りたい情報の発信と収集の場所になり、50年先も、心豊かな小諸であるように共に成長していく図書館になることを期待します。（お互いに暮らしやすい地域を実現するために図書館に成長してほしいです。）

●老朽施設



●こもろ・まちづくりの丘

コンパクトシティの核



●新図書館の内部イメージ



●新市庁舎等（整備後）



●新小諸厚生総合病院完成予想図

